

府食第607号
令和3年10月26日

食品安全委員会委員長 山本 茂貴 殿

研究・調査企画会議事前・中間評価部会
座長 脇 昌子

令和3年度食品健康影響評価技術研究の2次公募における採択課題
(案)について

このことについて、令和3年10月18日に開催した令和3年度研究・調査企画会議事前・中間評価部会(第3回)における審議の結果、別添のとおり取りまとめましたので、報告いたします。

(別添)

令和3年度

食品健康影響評価技術研究の
2次公募における採択課題(案)について

令和3年10月
研究・調査企画会議
事前・中間評価部会

令和3年度食品健康影響評価技術研究の2次公募における採択課題

受付番号	2	研究期間	令和3～4年度	
主任研究者	岩澤 聡子	所属機関	防衛医科大学校	
課題名	食品中の汚染物質のリスク評価手法に関する研究			
研究目的 概要	<p>汚染物質のリスク評価においては、曝露経路（食品中に含有されるもののほか、環境由来/食品調理過程での生成など）や体内動態を踏まえた曝露量推定、動物実験等による毒性試験結果及びヒトへの健康影響に関する疫学研究成果などに基づき、評価が行われる。</p> <p>本研究では、汚染物質等の国内外の評価事例や評価手法に関するガイダンスを踏まえ、リスク評価に利用するデータ及びそのデータの妥当性を判断する際に確認すべき事項を整理するとともに、汚染物質等のリスク評価に当たっての標準的な手法を作成し、ガイドラインを作ることが可能か検討する。もし可能と判断されたならばガイドラインを作成する。</p>			
評価所見	<p>（総合コメント） 公募内容に沿った研究内容であり、リスク評価における問題点や課題を明瞭にした上で、標準的な評価手法が作成されることを期待する。</p> <p>（その他）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ばく露評価、毒性評価及び疫学研究評価の多岐にわたるレビュー等を適切に実施できるよう、必要に応じて、研究体制を検討してほしい。 ・Codex委員会のガイドライン等にあるリスク評価の4つのステップ（ハザードの特定、ハザードの特性評価、ばく露評価、リスクの判定）に沿って、レビューされたい。 			
評価点	合計点	研究の妥当性	研究目標の達成度	研究成果の有用性
	16.0 / 20 点	4.4 / 5 点	4.0 / 5 点	7.6 / 10 点